

令和 6 (2024) 年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月 1日 / 年度末 3月 1日
氏名	松宮孝明
子ども学科	准教授
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

1. 責務 (何を行っているのか)

①担当科目

担当科目名	学科	学年
役立つ文章表現	子ども	1
国語科概論	子ども	1
算数科概論	子ども	1
算数科教育法	子ども	1
教職概論	子ども	1
教育課程論	子ども	1
道徳の理論と指導法	子ども	1
教職実践演習	子ども	2

②担任制度

担任 (1年生)	有	担任 (2年生)	有
----------	---	----------	---

③委員会活動

運営協議会		SD委員会	
研究倫理委員会		地域連携委員会	
危機管理委員会		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会	委員	広報委員会	
認証評価準備委員会	委員	高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	委員
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	
教務委員会	委員	湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD委員会	委員長	授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	副委員長
教学調査委員会	委員	学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無
助成者	未定
資金名	未定
研究種目	未定
期間	未定
助成金額（期間中合計）	未定
研究課題	未定
備考（分担者等）	未定

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	① 本学の准教授として、第一に、保幼小の教員を目指す学生に対して、主体的・対話的で深い学びにつながる授業を提供し、思考力・判断力・表現力を身につけた社会に有用な人材育成に寄与する。 ② 第二に、大学の教員として、教育方法や広く教育全般についての研究を深め、論文にまとめ、発表していく。 ③ 最後に、このような活動を通して、本学の魅力を広く発信し、価値や魅力の向上に貢献する。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	①現場感覚を取り入れた授業の工夫・・・保幼小の現場の授業ビデオ等を活用したりして、可能な限り、小学校現場で38年間教鞭をとってきた経験を生かした。 ②体験重視・・・講義だけで終わらず、可能な限り操作活動等を取り入れ、体験的な学びを実現した。 ③ICTの活用・・・Google workspace（Classroomなど）を大いに活用し、学生に慣れさせるとともに、授業に有効に活用した。
授業以外（学生支援等）	①学生支援・・・担任の学生を中心に、設定された面談時以外でも、こまめに声をかけ、困りごと等に対応した。 ②委員会活動・学科以外の兼務職・・・FD委員会、教学IR担当では、事務局と連携しながら、取りまとめ等を積極的に行った。 ③研究活動・社会活動等・・・「ICT活用の推進とその先～小学校算数科の実践を通して～」についてまとめ、紀要に掲載した。草津市教育支援委員会に副委員長（学識経験者）として参画した。算数科教育で大津市教委に協力したり、教科書会社の執筆・編集に関わった。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	①学生の興味関心、理解度の向上・・・意欲をもって授業に参画してくれたように思う。 ②学生のコミュニケーション能力の向上・・・授業の中に少人数でのディスカッションを多く取り入れ、自然に自分の考えが語れるようにできたと思う。
授業以外（学生支援等）	①学生との意思疎通の向上・・・就職支援等、きめ細やかにできたと思う。 ②学科内の取り組みに参画・・・FD委員会、教学IR担当等を中心に、与えられた役割は果たせたように思う。

5. 目標（今後どうするか）

授業	①卒業後の現場を意識した授業になるようにさらに工夫する。 ②体験的な活動をもとに、さらに思考力・判断力・表現力を高める授業の展開を工夫する。
授業以外（学生支援等）	①学生とのコミュニケーションをさらにきめ細やかにする。 ②研究活動・社会貢献活動をしっかり行う。

6. 重点目標に関する自己点検・評価（特に努力した2項目）

全学的な方針	「教職員としての自覚」に関する目標の達成に努めていますか？ →教育や教職員に関する時事問題に関心を持ち、新聞記事の切り抜き等をして、テーマについては関連事項を調べまとめたりして、発展的に学んだ。
担当業務	大学全体及び学科の担当業務を計画的に進めていますか？ →FD や IR の担当として、研修会等を企画運営できた。

7. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和 6(2024)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和 6(2024)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和 6(2024)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和 6(2024)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和 6(2024)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上